

2014.9.12

「協幹事長の功績に感謝」

こんにちは、参議院議員の西田昌司です。今日は9月12日の金曜日です。先程、参議院自民党の特別総会がありました。幹事長の役員任期が一年ということで、溝手会長から、幹事長に伊達忠一先生を任命するという新しい人事案がありました。

今回、協幹事長がその後退任の挨拶をされましたけれども、それが非常に素晴らしい立派な挨拶であったことも含めて、私は、協幹事長に心から敬意と感謝を述べたいと思っております。

実は私は協幹事長の下で副幹事長を1年務めてきました。協幹事長は幹事長の前には参議院自民党の国対委員長であった訳であります。そして、この国対委員長の時代というのが正に民主党政権を叩き潰す為にありとあらゆる手段を使いながら、国会での質問等、様々な追及をして来た訳ですけれども、その一番の司令塔が協幹事長でありました。私も、当時の協国対委員長の下で随分と国会で質問させて頂き、民主党の大臣の首を刎ねてきた訳であります。そういったことがありまして、今日自民党が政権復帰できたのであります。そして、その功績、実績が認められて、協国対委員長から幹事長に

なられた訳であります。

また、与党の幹事長としても素晴らしい采配をして頂きました。私が一番感動的であったのは、自民党が野党の時代には、民主党政権の経済政策、安全保障の出鱈目を追及して来た訳ですけれども、それと同時に、協国対委員長を先頭に参議院自民党の中で「まっとう議連」という物を作って、そこでもし我々が政権復帰を果たしたら、しなければならぬことをしっかりまとめておこうということで、安全保障政策、経済政策等、様々な事を提言ということでまとめてきた訳です。それを政権交代した後にそれを安倍総理にもお持ちしましたけれども、そういったことも協幹事長が我々に指示をしていただいた訳であります。そうした事から、協幹事長が今日の安倍内閣を作った一番の立役者である事は間違いない訳であります。

そんな中、選挙制度改革が今日の参議院自民党の中で一番大きな課題となっております。そして、協議会を作って、各党と議論をまとめるという事を議長、各政党の会長から要請を受けて、協幹事長が座長として選挙制度協議会が出来たのが今年の9月19日と、ちょうど1年前であります。私もその時からずっと協議会の委員になりまして、都合昨日までで1月に2回の割合で計26回この協議を重

ねてきて、最終的な座長案が出された訳であります。しかし、非常に残念であったのは、我々は会長からの要請を受けて議論をして、各会派とも協議をして来た訳ですけれども、肝心の自民党が中々議論をまとめられなかったことであります。これは私の微力ということもございましょう。反省をしなければならないと思っておりますけれども、これからは是非新しい体制の下でこの協議会を進めていって、早急に結論を出して頂きたいと思えます。

実は今日の特別総会で私も発言をさせて頂こうと思っておりましたけれども、議事の進行が会長にありますので、中々発言できるタイミングが無かったものですから、しなかった訳でありますけれども、その時に発言しようと思っていた事は、こういったことであります。

今申し上げた選挙制度協議会の結論はどんどん出していかなければなりません。そして、同時に党としての議論をして頂かなくてはならないのですけれども、一番大事なことは、正に「広く会議を興し万機公論に決すべし」ということであります。これは明治天皇が掲げられました五箇条の御誓文の第一条であります。これは正に広く会議を興して、議論をするという憲政の常道の姿、また、民主制

の一番の基本理念がそこに現れている訳です。これは憲政の常道であると同時に、自民党の一番大切にしてきたことであります。自民党は色んな考え方の方が沢山おられます。しかし、どんどん議論をし、それを公にし、議論を尽くすことで議論が一つにまとまって、落とし所が出てくるという所が自民党の良い所なのです。かつての民主党の場合、この議論があまり党内でされて来られずに、政府と与党は一体であるということで、政府の政務三役が決めたことを一方的に党の方針としてやらなければならないと言うことで政治が進められていました。これはスピード感があるのですけれども、党内で議論をしておりませんので、沢山の不満が募り、特に消費税の問題では、菅内閣の一方的な進め方に対して党内が分裂してしまう事になったわけでもあります。しかし、自民党はそうであってはいけません。やはり党内でしっかりと議論を進めていき、「広く会議を興して万機公論に決すべし」という憲政の常道を尽くして頂きたいという事を会長に申し上げたかったのであります。また、溝手会長のお名前が「けんせい」であります。正に憲政の常道を溝手会長に行って頂いて、新しい体制の下で選挙制度協議会の成案を得て頂きたいという事を私はエールとして申し上げようと思っておりましたけ

れども、そのタイミングを失してしまいました。

しかし、一方で最後に脇幹事長の退任のご挨拶が非常に感動的でありました。それは「今まで17年間の国会議員の生活の中で国会や国対一筋でやって来た。最後は幹事長をやって来たけれども、野党時代の苦勞を忘れてしまってはいけないということを肝に銘じなければいけない。最近是与党に戻ったからといって浮かれてしまっているのではないかというきらいもある。そこはやはりしっかりともう一度反省をしながらやっていかなければいけない。」というような事をお話になり、また、私の名前もお出し頂いて、「特に西田昌司君には野党時代に非常にご苦勞をかけてやって頂いた」という事で、過分なねぎらいの言葉も頂いた訳であります。

何れに致しましても、私はこれからも脇幹事長と一緒に自民党や参議院が、そして、日本の国が本当に真っ当な方向に行くように共に頑張っていきたいということを皆様にお誓い申し上げさせて頂き、久しぶりのビデオレターでありますけれども、お話を終えたいと思います。

本日もご覧頂きありがとうございます。